

チャイロヒメコブハナカミキリ *Macropidonia japonica japonica* (Ohbayashi)

【選定理由】

カツラの巨木に生活の大部分を依存する種で、全国的にも生息地に限られる。県内では面ノ木峠が唯一の生息地であり、確認されている発生木も一本があるにすぎず、生息基盤は極めて脆弱である。なおかつ、心ないマニアによる過度の採集、採集目的による発生木周辺環境の悪化（踏み荒らし等）が懸念される。

【形態】

体長 11~16mm。ヒメハナカミキリ属のカミキリムシを一回り大型にしたような体型をしたハナカミキリ。体色は一様に黄褐色。各脚は長く、前胸背には瘤状の隆起をもつ。



豊田市, 1994年6月, 長谷川道明 採集,
長谷川道明蔵

【分布の概要】

【県内の分布】

県内では、豊田市（旧稲武町）以外確認されていない。この産地は、本種の最も南の生息地にあたる。

【国内の分布】

山形県～岐阜県（飛騨山脈）までの本州に分布する。西日本に分布する近縁のシコクヒメコブハナカミキリとは、飛騨川付近を境に住み分けている。

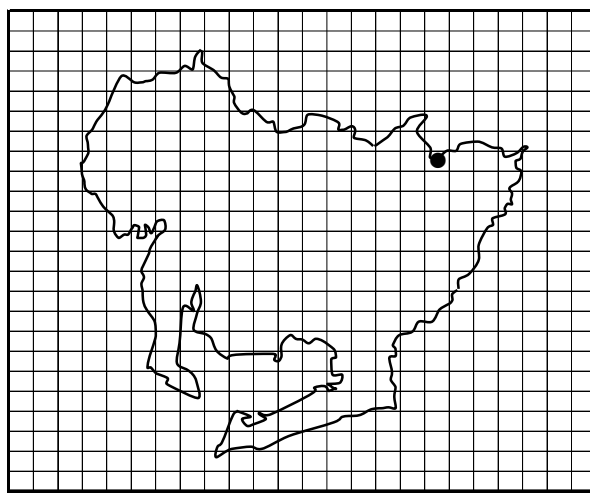
【世界の分布】

日本の特産種である。

【生息地の環境／生態的特性】

カツラの巨木に生活の大部分を依存している。成虫は、6~7月に出現。オスはカツラの巨木周辺の下草上に見つかる。恐らく、後から発生するメスを待っているものと考えられる。メスは苔むしたカツラの樹皮下に産卵すると思われる。

県内分布図



【現在の生息状況／減少の要因】

現在県内で本種の発生木はただ 1 本しか確認されておらず、周辺に本種が将来にわたって発生可能な状態にあるカツラは見あたらない。したがって状況は極めて深刻である。減少の原因としては、ブナ原生林の減少があげられる。1994 年以降の確実な生息情報を確認できていない。

【保全上の留意点】

発生木であるカツラの巨木とその周りの環境を保護する必要がある。巨視的には、カツラが生育するブナ林内の保全対策が必要である。ハイカーによる発生木周辺の踏み荒らしや、マニアによる過度の採集も慎むべきである。

【特記事項】

本種には地理的変異があり、本県に分布する個体群は、黒化傾向が強い。

【関連文献】

長谷川道明, 1992. 愛知県で採集されたチャイロヒメコブハナカミキリについて. 豊橋市自然史博物館研究報告, (2): 37-39.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)